

2月12日(土)

第1会場

13:30~15:00 シンポジウム

2階 講堂

海外のエビデンスと日本

〔座長〕 杉 薫 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科

1. How Global evidence should be adopted in a local region

The Chinese University of Hong Kong ○Cheuk-Man Yu

2. CRT適応拡大に関するメガスタディの適用

東京女子医科大学循環器内科 ○庄田 守男

3. 海外におけるFREEDOMスタディーと日本におけるOPTIMISEスタディーの概要

東京女子医科大学循環器内科 ○真中 哲之

4. CRT-D患者のアウトカムに関する本邦と欧米の比較：MOMIJI試験の結果から

東邦大学医療センター大橋病院循環器内科 ○杉 薫

2月13日(日)

第1会場

15:00～16:30 シンポジウム

2階 講堂

遠隔医療の現状と問題点—デバイス遠隔診断を中心として—

【概要】

遠隔医療に関して我が国は健康大国戦略と称し、政府主導で推進してきていることは周知の通りです。遠隔医療の適切な普及のための現行規制の解釈・要件明確化を打ち出したところですが、一方で、遠隔医療の必要性は現実のものとしてより大きくなってきています。日本不整脈学会に関連した案件としては植込みデバイスの遠隔モニタリングがあります。平成22年度の診療報酬改定では、遠隔モニタリングが認められ、デバイスの遠隔診断管理料が算定されたと思われました。しかしながら、実際の算定は対面診療をしないと算定されないことが地域により判明しています。本シンポジウムでは遠隔医療全体の問題を中心として討論し、その中でデバイス遠隔モニタリングはどのような位置にあるのかを明確化し、日本不整脈学会としての取り組みの方向性を模索できればと思います。

〔座長〕 松本 万夫 埼玉医科大学国際医療センター心臓内科  
阿部 芳久 秋田成人病センター循環器科

1. 遠隔医療について 現状と問題点

群馬大学医学部附属病院医療情報部 ○酒巻 哲夫

2. デバイス遠隔モニタリングの現状と問題点1

社会保険小倉記念病院循環器科 ○安藤 献児

3. デバイス遠隔モニタリングの現状と問題点2

国立循環器病研究センター心臓血管内科 ○岡村 英夫

4. 遠隔医療 厚生労働省の立場から

厚生労働省医政局経済課医療機器政策室 ○池田千恵子